

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	薬物代謝酵素 CYP3A 活性のアムロジピン血中濃度への影響		
1. 研究の目的と方法	高血圧や狭心症の薬として広く使用されているアムロジピンの中毒濃度について評価することを目的としています。法医解剖時に採取した血液および尿中アムロジピンおよび主な代謝物濃度等を分析し、死亡時の概要と照らし合わせることで、アムロジピンの治療域および中毒域の値の目安を決定します。さらに、血液中のコルチゾールおよび6β-ヒドロコルチゾールの濃度を使って、薬物代謝に関わる酵素である CYP3A の活性（代謝する能力の働きの強さ）を調べることで、アムロジピン濃度と薬物代謝酵素 CYP3A との関連を明らかにします。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2026年3月31日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2019年4月1日から2023年12月31日までに東京慈恵会医科大学において法医解剖を受けた方		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	法医解剖時に、検査および鑑定目的で、採取した血液および尿	
	(2) 試料の取得の方法	法医解剖で、検査および鑑定目的で、すでに採取し保管されている余剰試料（血液、尿）を使用するので、改めての採取はありません。	
	(3) 情報の種類	事例概要（基本情報：年齢、性別、身長、体重、直接死因、既往歴、生前の処方薬、死後経過時間）、血液・尿中のアムロジピンおよびその他の薬物の検出結果、血液中のコルチゾールおよびその代謝物の濃度	
	(4) 情報の取得の方法	解剖記録および薬毒物分析報告書からデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 法医学講座
		氏名	前橋 恭子
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	(1)の研究責任者と同じ	
(4) 共同で研究 を実施する 施設とその	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。		

	責任者	
6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 情報の利用開始日：2022年1月～	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学 法医学講座 研究責任者：前橋 恭子（まえばし きょうこ） 電話：03-3433-1111（内線：2281） 対応時間：平日 10：00 ～ 17：00）	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。